

# 海外食料需給レポート

## (2020 年 10 月)

令和 2 年 10 月 30 日

**農林水産省**

# 海外食料需給レポートについて

## 1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

## 2 対象者

このレポートは、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

## 3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

## 4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

## 5 本レポートに記載のない情報は以下を参照願います。

### (1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し(農林水産政策研究所)：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

### (2) 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

### (3) その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<http://www.fao.org/home/jp/>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<http://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関(代表的なものです)

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<http://www.agr.gc.ca/eng/home/?id=1395690825741>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

# 目 次

## 概要編

|     |                             |   |
|-----|-----------------------------|---|
| I   | 2020 年 10 月の主な動き            | 1 |
| II  | 2020 年 10 月の穀物等の国際価格の動向     | 2 |
| III | 2020/21 年度の穀物需給（予測）のポイント    | 2 |
| IV  | 2020/21 年度の油糧種子需給（予測）のポイント  | 2 |
| V   | 今月の注目情報 ロシア・ウクライナの穀物生産・輸出動向 | 3 |

### （資料）

|   |                        |   |
|---|------------------------|---|
| 1 | 穀物等の国際価格の動向            | 7 |
| 2 | 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移    | 8 |
| 3 | 令和 2 年 4 月以降の食品小売価格の動向 | 9 |

## 品目別需給編

|    |        |     |
|----|--------|-----|
| I  | 穀物     |     |
| 1  | 小麦     | 1   |
| 2  | とうもろこし | 8   |
| 3  | コメ     | 1 2 |
| II | 油糧種子   |     |
|    | 大豆     | 1 7 |

### 【利用上の注意】

## (概要編)

## I 2020 年 10 月の主な動き

写真 米国のとうもろこしの収穫  
(イリノイ州 9月21日撮影)

### 1 米国の穀物輸出動向と期末在庫率

米国のコーンベルトでは、収穫が最盛期を迎えており、10月18日時点で、とうもろこしの収穫進捗率は60%、大豆は75%と過去5年平均と比較して早いペースとなっている。

米国農務省(USDA)の需給報告では、米国のとうもろこしや大豆の生産量は、収穫面積の下方修正等により前月から下方修正され、それぞれ3億7,400万トン、1億1,600万トンの見通し。

一方、中国向けを始め輸出が活発なことから、10月の需給報告では、米国のとうもろこしの輸出量は、前年度を大幅に上回る5,910万トン、大豆の輸出量は、同じく5,990万トンと見込まれている。この結果、米国のとうもろこしや大豆の期末在庫率は下方修正され、とうもろこしは14.9%と前年度(14.4%)を上回っているが、大豆は6.4%と前年度(13.2%)を大幅に下回っている。



### 2 伸びる中国の穀物輸入動向

中国では、アフリカ豚熱による影響が落ち着き、養豚生産が回復基調となっている。また、需要面でも新型コロナウイルスの影響から脱して、通常に戻りつつあるとみられる。

これに伴い、飼料用とうもろこしや大豆かすの需要が増加し、とうもろこしについては、国内価格の上昇に伴い輸入が増加し、USDAによれば、2020/21年度の輸入量は700万トンと見込まれているが、それ以上の輸出成約があるとみられる。また、飼料向けに代替可能な小麦の輸入量については750万トンに上方修正された。さらに、大豆については、史上最高の1億トンが見込まれている。

### 3 ラニーニャ現象とブラジル大豆の作付け遅れ

米国の米国海洋大気局(NOAA)は、本年5月半ば以降、ペルー沖の海水温が低下し、ラニーニャ状態に向かっており、9月にはその傾向が強くなったとしている。ラニーニャが発生した場合、南米の作物生産に影響を与える可能性があると言われている。例えば、ラニーニャ年におけるブラジルは「北部で多雨、南部で乾燥」となる傾向があるが、今年はその乾燥エリアが中西部のマトグロッソ州等の主産地まで広がった。10月下旬には降雨があったが、大豆や夏とうもろこしの作付けが遅れている。

ブラジル食料供給公社(CONAB)の10月レポートでは、2020/21年度のとうもろこし、大豆の生産量は、それぞれ前年度を上回り史上最高の1億3,400万トン、1億500万トンが見込まれている。大豆の作付けが遅れても、降雨後に作付けが行われれば大豆の作付面積には影響しないとみられるが、大豆の収穫後の圃場に作付けされる冬とうもろこしの作付時期も遅れることから、今後の降雨の状況に注視する必要がある。

## Ⅱ 2020 年 10 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、9 月下旬、210 ドル/トン台前半で推移。ロシア、アルゼンチンに加え、米国の冬小麦生産地帯での乾燥懸念から価格は上昇し、10 月下旬現在、230 ドル/トン台前半で推移。

とうもろこしは、9 月下旬、140 ドル/トン台半ばで推移。9 月末の米国農務省四半期在庫報告での市場予想を下回る在庫量、米国産とうもろこしの輸出成約の増加、南米の乾燥天候による作付け遅れ等から価格は上昇し、10 月下旬現在、160 ドル/トン台半ばで推移。

コメは、9 月下旬、510 ドル/トン台前半で推移。タイの国内需要や新規輸出需要の低迷に加え、新穀の出回りの開始から価格は下落し、10 月下旬現在、470 ドル/トン台後半で推移。

大豆は、9 月下旬、360 ドル/トン台後半で推移。9 月末の米国農務省四半期在庫報告での市場予想を下回る在庫量、米国産大豆の中国向け輸出成約の増加、南米の乾燥天候による作付け遅れ等から価格は上昇し、10 月下旬現在、390 ドル/トン台後半で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場、米はタイ国家貿易委員会価格

## Ⅲ 2020/21 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から 310 万トン上方修正され 27.3 億トン。消費量は、前月から 320 万トン上方修正され 27.1 億トンとなり、生産量が消費量を上回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を上回り 30.7%となる見込み（資料 2 参照）。

生産量は、前月と比較して、とうもろこしで下方修正も、小麦、コメで上方修正されたことから、穀物全体で上方修正され 27.3 億トンの見込み。

消費量は、前月と比較して、とうもろこしで下方修正も、小麦、コメで上方修正されたことから、穀物全体で上方修正され 27.1 億トンの見込み。

貿易量は、小麦は上方修正も、とうもろこし、コメで下方修正され、4.6 億トンの見込み。

期末在庫量は、8.3 億トンと前月より下方修正され、期末在庫率は前年度を上回る。

(注：数値は 10 月の米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

## Ⅳ 2020/21 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.1 億トン。消費量は前年度を上回り 6.1 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を下回り、16.6%となる見込み。

(注：数値は 10 月の米国農務省「Oilseeds : World Markets and Trade」による)

## V 今月の注目情報：ロシア・ウクライナの穀物生産・輸出動向

2020年9月末のロシア議会で、パトルシェフ農相は穀物生産が1億2,500万トンを超えるとの見通しを公表した。一方、隣国のウクライナでは、乾燥の影響で小麦、大麦ともに減産となっている。両国とも新型コロナウイルスの感染拡大が始まった3月末には穀物の輸出割当や小麦の輸出上限数量を設定した。ウクライナは8月に小麦について再度、輸出上限数量を設定した。ロシアは、現時点では輸出枠の設定は行っていない。最近の両国の穀物生産・輸出動向をまとめた。

### 1 穀物生産動向

#### (1) ロシア

ロシアの2020/21年度の穀物生産は、単収の増加により前年度を上回り1億2,500万トンに達する見通しとなっている。USDAの10月見通しによれば、小麦については、前年度と比較して、シベリア地域で主に栽培される春小麦の単収が史上最高となり、欧州地区で栽培される冬小麦においても南部連邦管区の乾燥によ

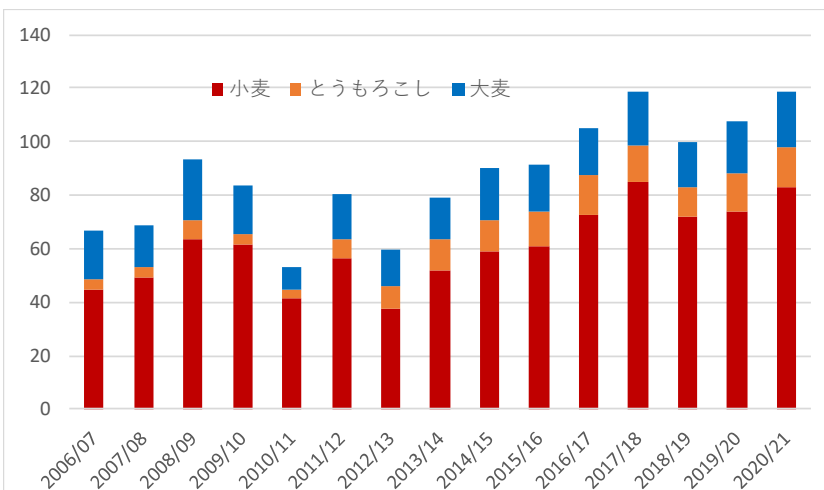
る減産を、中央、沿ボルガ連邦管区での増産がカバーすることから、生産量は、前月より上方修正され、前年度を13%上回り、2017/18年度に次ぐ史上2位の8,300万トンとなる見通し。一方、大麦については、収穫面積は減少するものの、単収の増加により前年度より増産となる2,060万トンの見通し。とうもろこしも、単収は減少するものの、収穫面積の増加により、2015/16年度の史上最高の水準に迫る1,500万トンとなる見通し。

ロシアの穀物生産量は、干ばつの影響による2010/11年度、2012/13年度の減産はあるものの、最近10年間は概ね増加傾向で推移している。なお、増産の要因として、種子の改善や肥料や農業機械に関する最新の農業技術の導入があげられる。

#### (2) ウクライナ

ウクライナの2020/21年度の穀物生産は、南部のステップ地域の乾燥の影響により豊作となった前年度より減少する見通しとなっている。USDAの見通しによれば、小麦の生産量は乾燥の影響により前月より下方修正され、前年度より13%減の2,550万トンの見通し。

図1 ロシアの主要な穀物の生産量の推移



出典：USDA「PS&D」(2020.10.9)を農林水産省で加工

写真 ロシア・中央連邦管区 クルスク州の収穫を待つ冬小麦 (8月1日撮影)



大麦については単収の低下により前年度より減産の 800 万トン、とうもろこしは 7 月～9 月の成熟期の乾燥の影響で前月から単収が下方修正されたものの、収穫面積は増加することから、3,650 万トンの見通し。

ウクライナの穀物生産量についても、ロシア同様、概ね増加傾向で推移している。従来はロシアと同様、穀物の中で、小麦の生産量が一番多かったが、

2010 年台に入り、大規模な農業・家畜生産を行うアグロホールディングスといわれる農業経営が盛んとなり、飼料用とうもろこし栽培が増加したこと等から、2011/12 年度以降、とうもろこしの生産量が小麦の生産量を上回る傾向となっている。

## 2 穀物貿易動向

### (1) ロシア

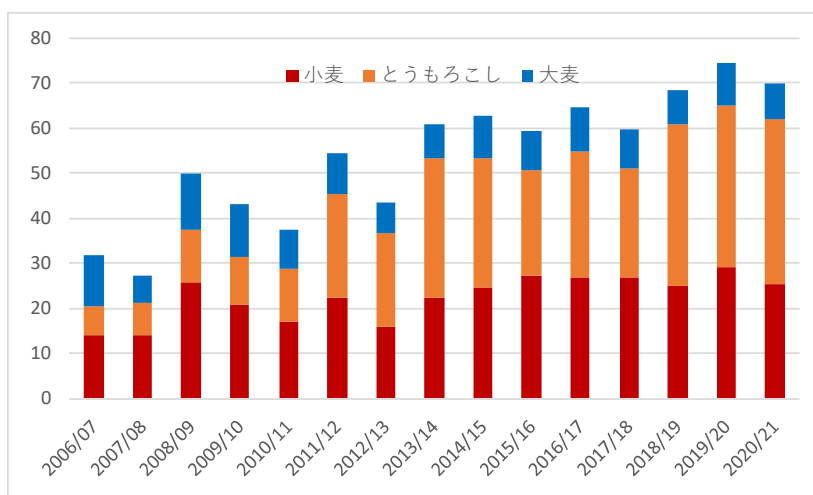
ロシアの穀物輸出は、穀物生産の増加に伴い増加しており、最近では、小麦は米国を抜いて世界一の輸出国となっている。特に地理的に近い中近東、北アフリカ向けの輸出が従来から多いが、豪州の 2018/19 年度、2019/20 年度と 2 年連続の干ばつによる東南アジア向けの輸出減から、東南アジア向けへ輸出されるようになった。

近年生産量が増加してきたとうもろこしについても、世界第 5 位の輸出国となっている。

輸出港については、黒海沿岸の南部連邦管区のノボロシスク港等において、ロシア欧州地区産の穀物の輸出増に対応できるように港湾施設の拡張が行われてきた。しかしながら、シベリア産の小麦については輸出港から遠く、鉄道運賃もかかることから、今後の課題となっている。

なお、本年 4 月には、ロシア政府は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2020 年 4～6 月期の穀物について輸出枠 700 万トンを設定した。7 月以降、新穀の小麦の供給に伴い、現時点では輸出枠の設定は行われていない。

図 2 ウクライナの主要な穀物の生産量の推移



出典：USDA「PS&D」(2020.10.9)を農林水産省で加工

写真 ウクライナ中部 ポルタバ州のとうもろこし収穫  
(10月5日撮影)



## (2) ウクライナ

ウクライナの穀物輸出は、穀物生産の増加に伴い増加しており、とうもろこしについては、世界第4位の輸出国となっている。EU向けや中国向けのシェアが高く、中国のとうもろこし輸入の約9割がウクライナ産となっている。2020年の中国のウクライナ産とうもろこしの輸入増により、EU向けのとうもろこし供給が減少している。小麦については、豪州の2018/19年度、2019/20年度と2年連続の干ばつによる輸出減から、東南アジア向けへの輸出を伸ばした。

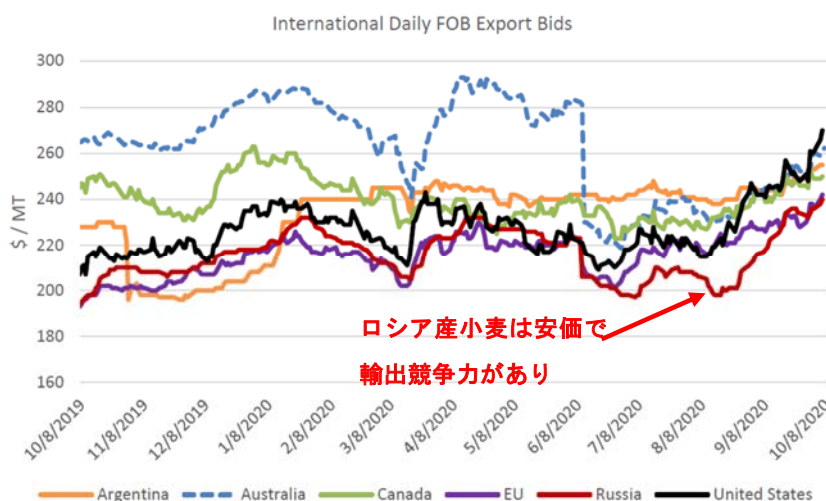
輸出港については、黒海沿岸のオデッサ港等から輸出されている。ウクライナの穀物輸出港では、以前はロシア産穀物を取り扱っていたが、2014年のロシアのクリミア占領後、ロシア産小麦の輸出を取りやめたため、ウクライナ産穀物の輸出能力が改善された。

なお、ウクライナ政府と関連穀物業界は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2019/20年度（7月～6月）の小麦輸出に関し、2,020万トンの輸出上限数量の設定を行った。8月に2020/21年度についても、小麦輸出について1,750万トンの輸出上限数量を設定しており、10月26日付けで変更はしない旨公表している。

図3 主要小麦輸出国の小麦 FOB 価格推移（下表は10月8日時点のFOB価格）

| Argentina | Australia | Canada | EU    | Russia | United States |
|-----------|-----------|--------|-------|--------|---------------|
| \$255     | \$261     | \$250  | \$242 | \$240  | \$270         |

Note: As of August 10th, 2020



Source: IGC

\*Note on FOB prices: Argentina- 12.0%, up river; Australia- average of APW; Fremantle, Newcastle, and Port Adelaide; Russia - Black Sea- milling; EU- France grade 1, Rouen; US- HRW 11.5% Gulf; Canada- CWRS (13.5%), Vancouver

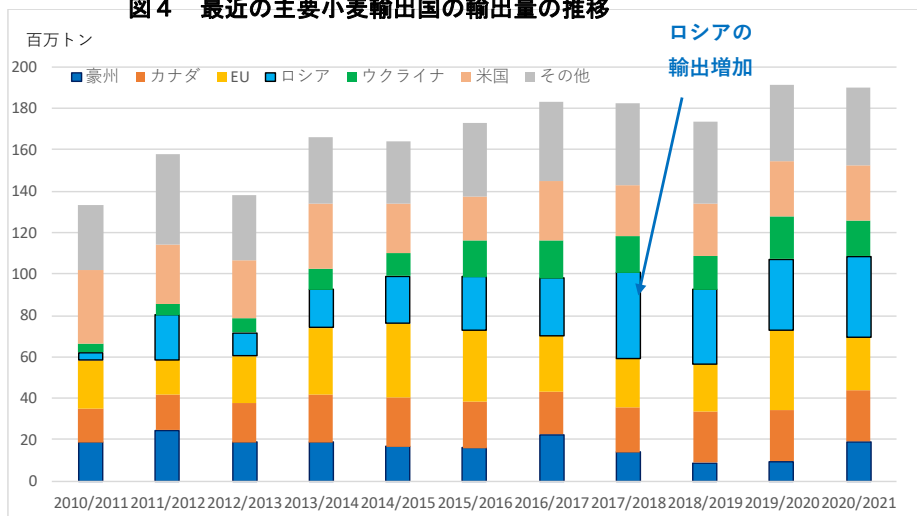
出典：USDA「GRAIN Markets and Trade」（2020.10.9）を農林水産省で加工

## 3 世界の穀物貿易に与える影響

近年、穀物貿易に占めるロシア、ウクライナの輸出シェアについては、増産に加え、豪州の干ばつによる輸出不振などもあり、増加してきた。

2020/21年度に入り、ロシアは増産見通しとなり、小麦については輸出シェアを伸ばすと見られるが、ウクライナについては、8月以降、再度小麦の輸出上限数量を設定したことなどか

図4 最近の主要小麦輸出国の輸出量の推移



出典：USDA「PS&D」（2020.9.11）

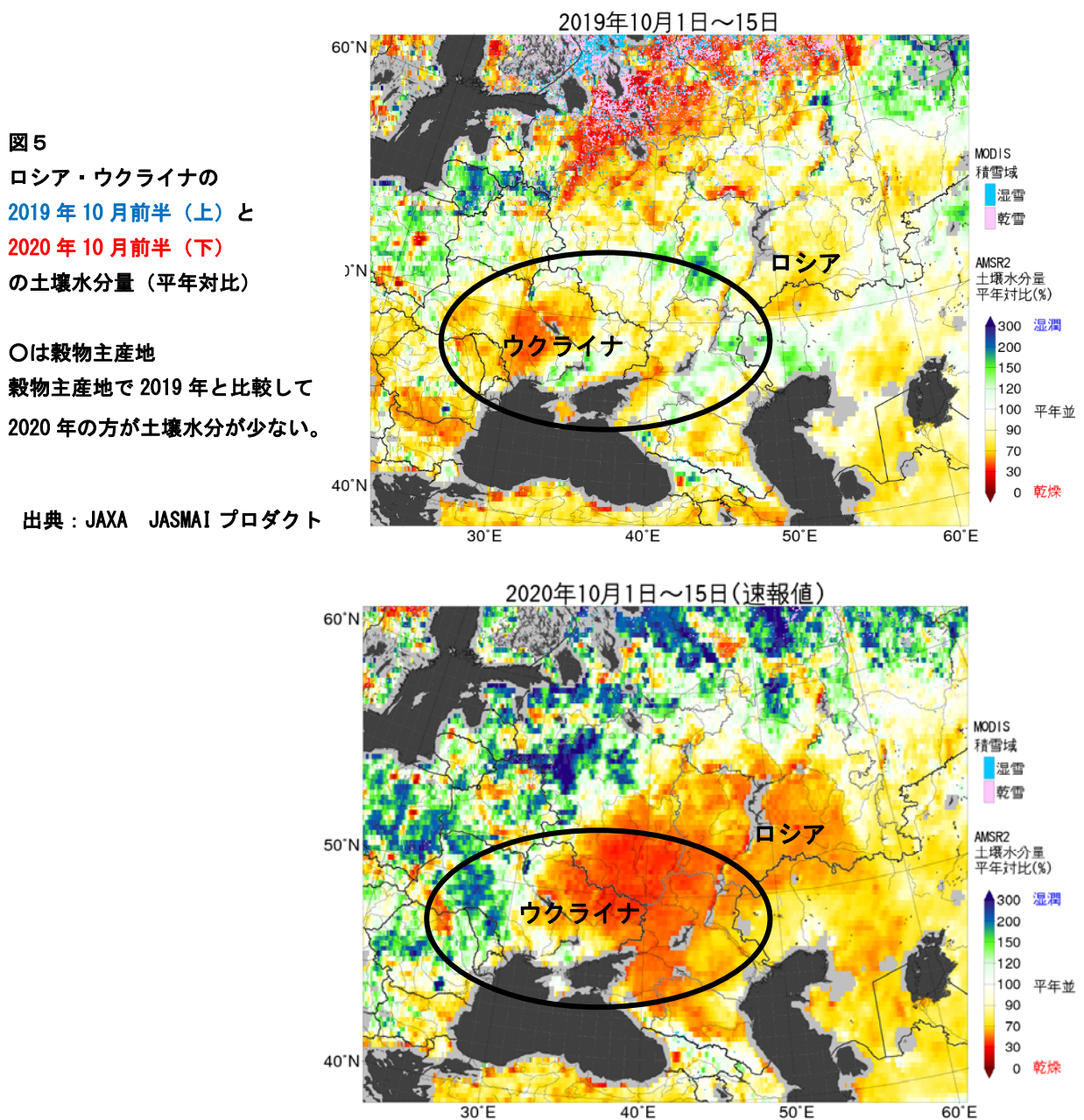
ら、頭打ちとなるとみられている。

現在、2021/22 年度の冬作物の作付時期を迎えている。ロシアでは 10 月上旬現在、作付けが 8 割程度終了しているが、南部連邦管区や北カフカス連邦管区では 9 月～10 月中旬までの降雨が平年の 2 割以下となっているなど、乾燥により作付けが遅れている。また、ウクライナでも 9 月の乾燥の影響で作付けが遅れており、10 月上旬現在、作付進捗率は 40%から 50%程度となっている。

一方、ウクライナの穀物の主要輸出先である中国では、新型コロナウイルスやアフリカ豚熱の影響が収まり、穀物輸入を増加させている。また、EU についても乾燥等で穀物が減産となり、穀物輸入を増加させている。

ロシアは、2010 年や 2012 年の干ばつによる不作の際、輸出禁止措置等の輸出規制を行った。

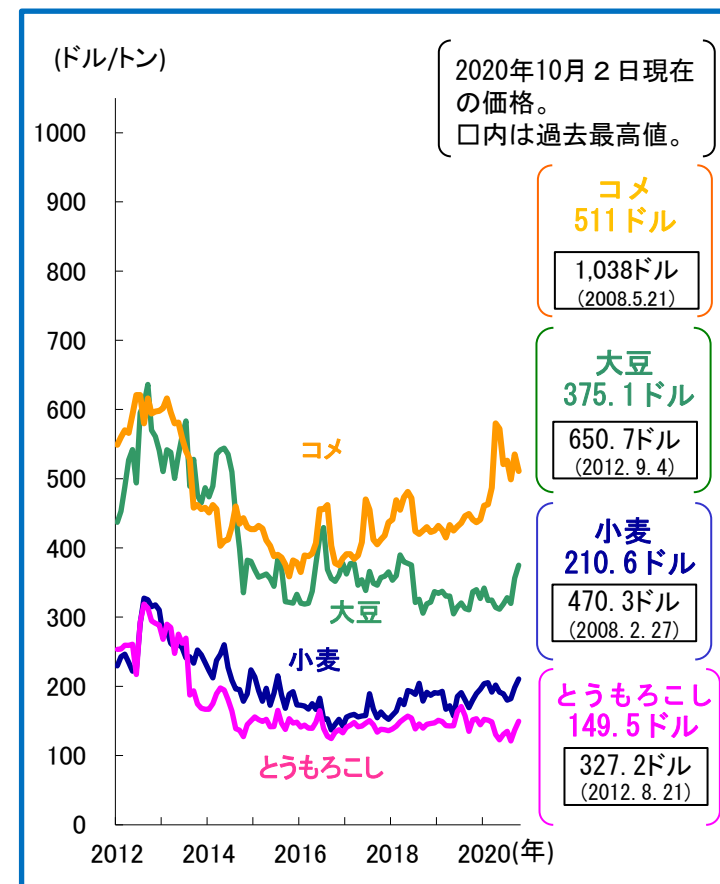
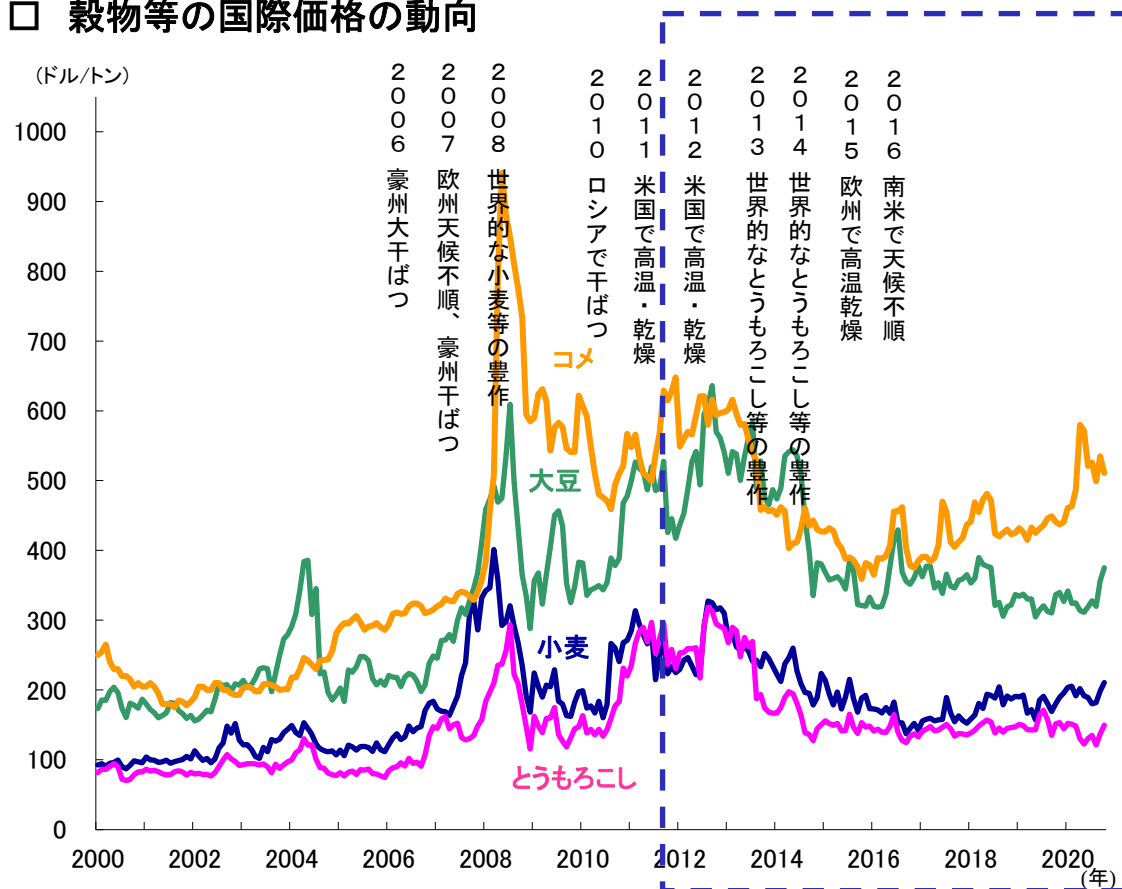
現在、産地が乾燥傾向にあることから、今後の動向には注視が必要である。



## 資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な小麦やとうもろこし、大豆の豊作等から穀物等価格は低下。  
2017年以降ほぼ横ばいで推移。コメは、2013年以降タイの在庫放出等から低下したが、2020年ベトナムの輸出枠の設定等により3月末から上昇した。4月末のベトナムの輸出枠の解除等で下落したものの、依然として高止まり。
- なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により、2008年以前を上回る水準で推移している。

### □ 穀物等の国際価格の動向



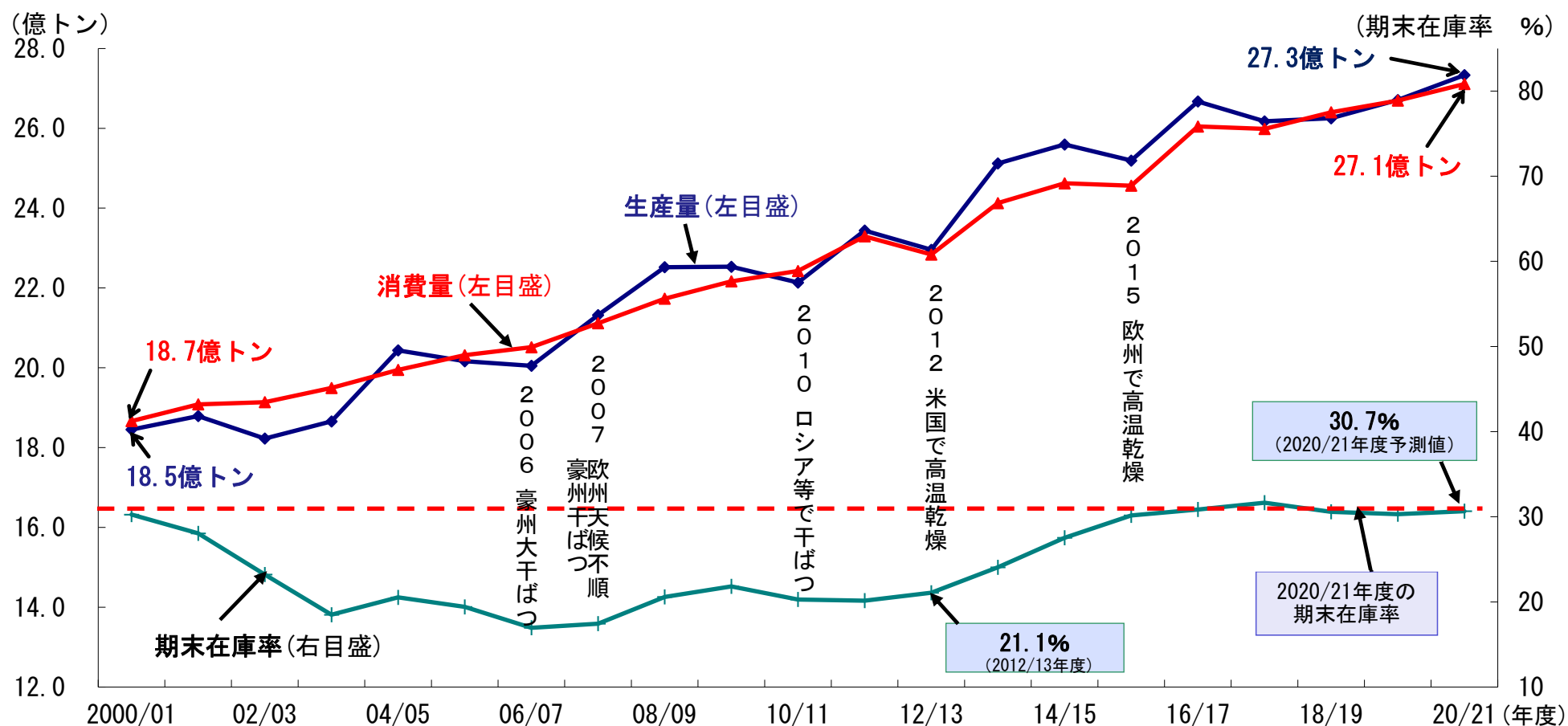
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。（なお、2020年10月2日現在のコメ価格は9月30日の価格。）

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

## 資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2020/21年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2020/21年度の期末在庫率は、生産量が消費量を上回ることから30.7%となり、直近の価格高騰年の2012/13年度(21.1%)を上回る見込み。

### □ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(October 2020)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

## 資料3 令和2年4月以降の食品小売価格の動向

○ 加工食品の国内の食品小売価格については大きな値動きはなし。

### 令和2年4月～令和2年9月の 食品小売価格の動向

| 品目              | 消費者物価指数(総務省) |       |       |       |       |             |       |       |       |       |       |       |                    |
|-----------------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------------|
|                 | H26          | H27   | H28   | H29   | H30   | H31<br>(R元) | R2    |       |       |       |       |       |                    |
|                 | 平均           | 平均    | 平均    | 平均    | 平均    | 平均          | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 上昇率<br>(前年<br>同月比) |
| 生鮮食品を<br>除く総合   | 97.7         | 100.0 | 99.7  | 100.2 | 101.0 | 101.7       | 101.6 | 101.6 | 101.6 | 101.6 | 101.3 | 101.3 | -0.3%              |
| 食パン             | 98.5         | 100.0 | 101.1 | 100.9 | 101.4 | 102.3       | 101.6 | 101.2 | 101.5 | 101.2 | 100.9 | 100.9 | -1.5%              |
| 即席めん            | 94.2         | 100.0 | 100.0 | 99.5  | 99.0  | 102.4       | 105.0 | 103.7 | 104.5 | 104.9 | 103.3 | 102.6 | -3.2%              |
| 豆腐              | 98.0         | 100.0 | 100.0 | 100.5 | 100.7 | 101.0       | 101.5 | 101.7 | 101.7 | 101.6 | 102.0 | 102.1 | 0.7%               |
| 食用油<br>(キャノーラ油) | 102.8        | 100.0 | 97.8  | 94.5  | 93.3  | 92.8        | 92.6  | 92.9  | 91.8  | 92.3  | 91.5  | 92.2  | -0.8%              |
| みそ              | 100.6        | 100.0 | 99.4  | 99.1  | 99.6  | 101.4       | 102.5 | 102.8 | 102.7 | 102.8 | 102.7 | 102.6 | 0.6%               |
| チーズ             | 97.9         | 100.0 | 99.3  | 98.8  | 102.6 | 102.9       | 102.5 | 99.9  | 101.3 | 101.1 | 102.4 | 103.0 | -0.9%              |
| バター             | 95.0         | 100.0 | 101.5 | 101.7 | 102.0 | 102.3       | 102.1 | 102.2 | 102.1 | 102.6 | 102.7 | 102.4 | 0.0%               |
| マヨネーズ           | 103.5        | 100.0 | 98.1  | 96.7  | 95.3  | 95.1        | 95.2  | 95.3  | 94.8  | 94.1  | 93.5  | 94.8  | -0.8%              |

資料:総務省消費者物価指数

注1:平成27年の平均値を100とした指数で表記している。

### 【参考】令和2年5月～令和2年10月の 食品小売価格の動向

| 食品価格動向調査(農林水産省) |       |       |       |       |       |             |       |       |       |       |       |       |              |                    |  |  |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|--------------------|--|--|
|                 | H26   | H27   | H28   | H29   | H30   | H31<br>(R元) | R2    |       |       |       |       |       |              |                    |  |  |
| 品目              | 平均    | 平均    | 平均    | 平均    | 平均    | 平均          | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 上昇率<br>(前月比) | 上昇率<br>(前年<br>同月比) |  |  |
| 食パン             | 97.7  | 100.0 | 100.9 | 99.5  | 99.8  | 103.2       | 103.2 | 101.9 | 101.6 | 101.0 | 101.6 | 101.6 | 0.0%         | -1.4%              |  |  |
| 即席めん            | 93.3  | 100.0 | 99.8  | 99.6  | 99.5  | 105.3       | 107.9 | 107.9 | 107.9 | 107.2 | 107.2 | 106.5 | -0.6%        | -1.3%              |  |  |
| 豆腐              | 100.3 | 100.0 | 96.9  | 95.6  | 95.0  | 95.7        | 97.1  | 95.5  | 94.3  | 94.3  | 93.9  | 93.9  | 0.0%         | -0.8%              |  |  |
| 食用油<br>(キャノーラ油) | 102.8 | 100.0 | 96.3  | 94.6  | 94.6  | 100.1       | 97.1  | 97.1  | 96.2  | 97.1  | 95.9  | 95.9  | 0.0%         | -2.7%              |  |  |
| みそ              | 99.0  | 100.0 | 99.8  | 101.6 | 106.8 | 111.0       | 112.9 | 110.6 | 110.1 | 111.0 | 110.1 | 109.6 | -0.4%        | -1.7%              |  |  |
| チーズ             | 97.1  | 100.0 | 100.0 | 99.7  | 103.2 | 105.7       | 100.6 | 102.7 | 104.8 | 104.8 | 105.8 | 105.3 | -0.5%        | -1.0%              |  |  |
| バター             | 94.6  | 100.0 | 101.3 | 102.0 | 102.3 | 102.7       | 103.7 | 103.4 | 103.2 | 103.4 | 103.4 | 103.2 | -0.2%        | 0.5%               |  |  |
| マヨネーズ           | 101.6 | 100.0 | 99.2  | 98.4  | 97.2  | 102.4       | 100.0 | 99.3  | 98.3  | 99.0  | 97.6  | 98.3  | 0.7%         | -3.7%              |  |  |

資料:農林水産省 食品価格動向調査(加工食品)

注1:平成27年の平均値を100とした指数で表記している。

注2:調査は原則、各都道府県10店舗で週1回実施。ただし、平成30年10月以降は月1回実施。

注3:調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4:令和2年4月の調査は、東京都、大阪府、埼玉県、千葉県、神奈川県、兵庫県、福岡県での調査を中止し、5月の調査は東京都、大阪府、北海道、茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、石川県、岐阜県、愛知県、京都府、兵庫県、福岡県での調査を中止し、6月の調査は全国で再開したことから、それぞれ前月の値とは接続しない。